乙貞

第１１０号　通巻２０巻第１号
２０００年５月１日　発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎・FAX　０７７－５８５－４３９７

〒５２４－０２１２
守山市服部町２２５０番地

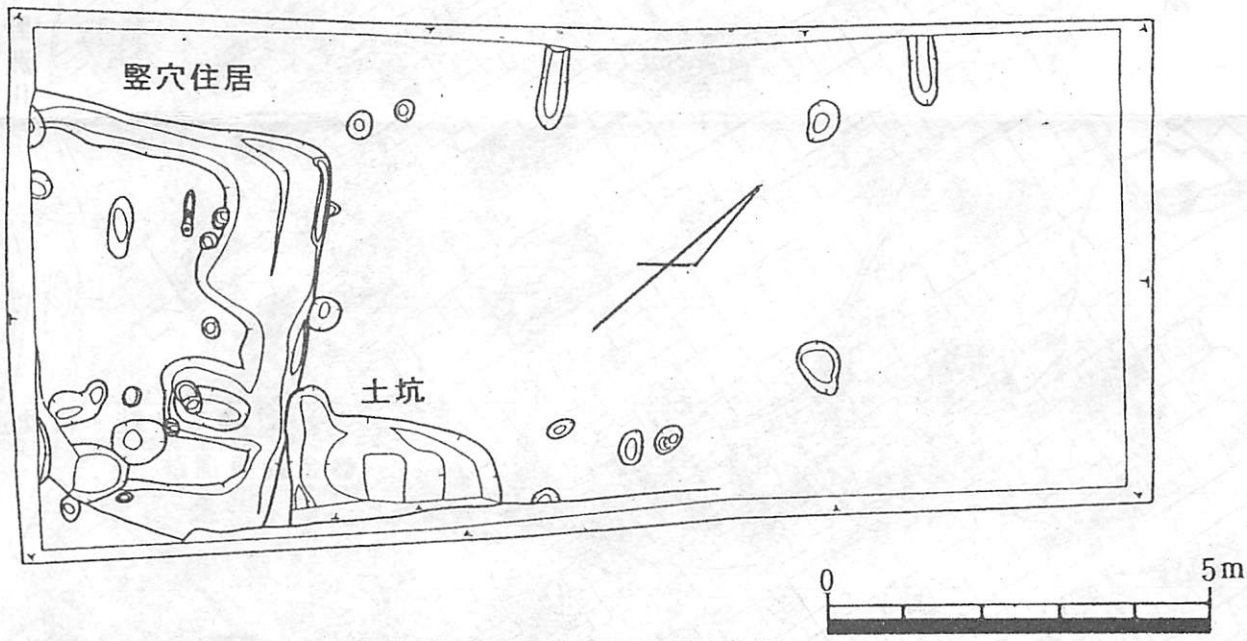
☆発掘調査だより☆

1．金森東遺跡21次調査（守山三丁目）

住宅建築工事に先立ち約141㎡を対象に発掘調査を実施しました。調査の結果、竪穴住居１棟の他、ピット、土坑を検出しました。竪穴住居は調査区外に広がりますが、三辺を確認できたことから、一辺約６ｍの規模を測る方形プランの住居であることがわかりました。住居の壁際には幅の広い周壁溝がめぐり、住居中央やや南側から貯蔵穴と考えられる土坑が見つかっています。また、中央から少し北側で検出した炉跡と考えられる土坑は焼土と炭層がサンドイッチ状になって、堆積していました。遺物は土師器の甕や高杯の他、碧玉の剥片・チップ、滑石チップが多量に出土しました。住居の年代は出土した土器から古墳時代前期と考えられます。第12次、16次、17次調査でも古墳時代の竪穴住居から碧玉や滑石の玉の未製品やチップが出土しており、金森東遺跡で碧玉や滑石を材料にした玉作りが行われていたことがわかります。

また、竪穴住居の東側で検出した土坑からは信楽焼の摺鉢が出土しました。室町時代頃の年代が考えられます。これらの遺構から東側は遺構が見つかっていないことから、今回の調査地が金森東遺跡の東端にあたると考えられます。

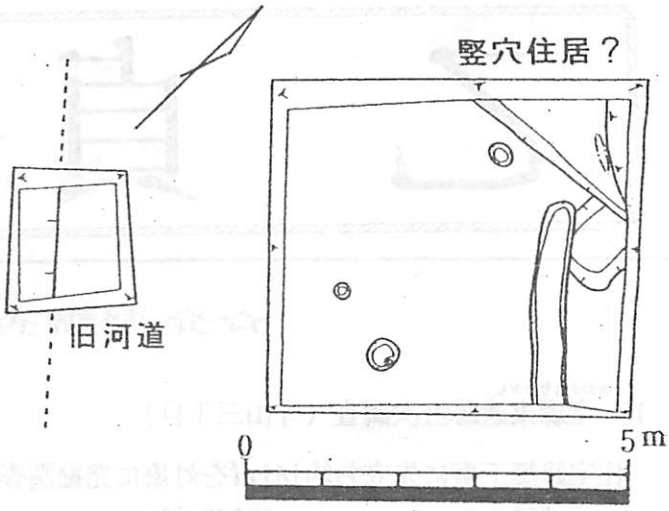
（畑本）



金森東遺跡第21次調査遺構全体図

2．二ノ畦・横枕遺跡の調査（守山六丁目）

住宅の建て替えに伴い調査を実施しました。その結果、土坑と落ち込みを検出しました。落ち込みは調査地の北端で一部検出しただけですが、竪穴住居の可能性があります。年代は弥生時代中期頃と考えられます。二ノ畦・横枕遺跡は弥生時代中期末の大環濠集落として知られています。今回検出した遺構もその一部ではないかと推定されます。　（小島）

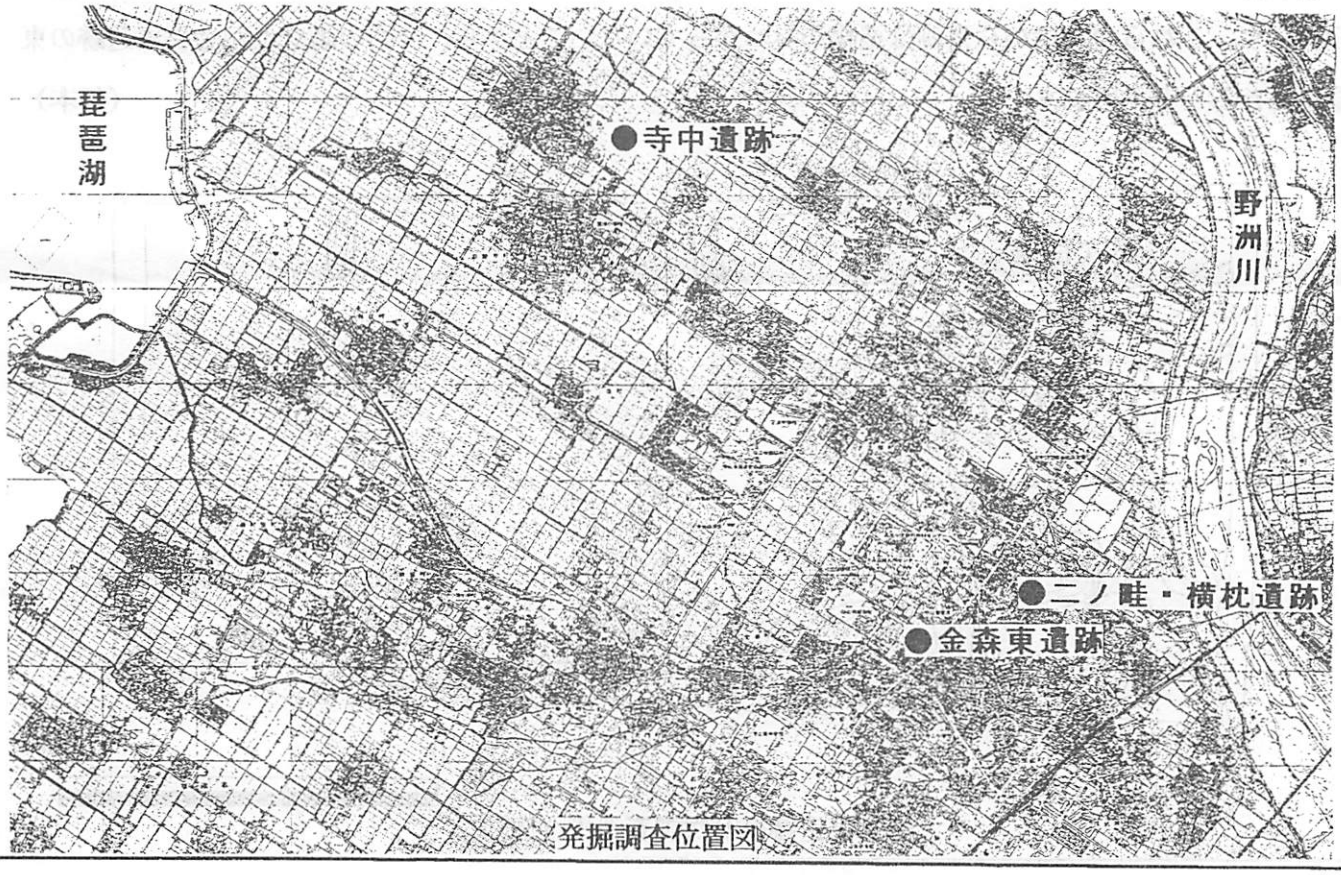


二ノ畦・横枕遺跡遺構全体図

3．寺中遺跡の調査（守山市矢島町）

矢島町で農業用倉庫建築に伴い、調査を実施しました。表土（水田）から約80㎝程下で、土坑と旧河道（あるいは低湿地）とみられる遺構を検出しました。旧河道（あるいは低湿地）の幅は約15mの規模で、検出面で多量の土器を確認しました。採取した一部の土器から７世紀後半頃のものではないかと考えられます。寺中遺跡は弥生時代中期の集落跡として知られていますが、今回の調査によって周辺に７世紀後半代の集落が存在することがわかりました。

なお、地下に多量の土器が埋蔵されていると考えられますが、建物の基礎がその下に及ばないことから平面確認のみで調査を終了しました。　（小島）



発掘調査位置図

守山の遺跡～縄文時代編

遺跡とは人間の営(いとな)みの跡のことをいいます。住居跡、墓跡、ゴミ穴の跡など、人々の様々な生活の跡が私たちの暮らす地面の下に埋まっています。守山市内には現在、縄文時代～江戸時代までの遺跡が141ケ所ありますが、その内容はあまり知られていません。そこで、このコーナーでは市内の代表的な遺跡を時代ごとに紹介し、守山市の歴史をたどっていきたいと思います。

守山市最古の遺跡は縄文時代早期末（今から約6,400年前）の赤野井湾(あかのいわん)遺跡です。標高80.8m、つまり琵琶湖の底約1.5m下（湖面から約3.5m下）から見つかりました。この遺跡で注目されるのは集石炉(しゅうせきろ)3基の存在です。大きな穴の中から焼けた石が大量に出土したことから、炉として使用していたものと考えられています。食料を蒸し焼きにしたのでしょうか？、穴の中からは多量の炭に混じってコイ、フナ、ナマズ、アユ、ギギなどの魚の骨やイノシシ、スッポン、ヘビ、ネズミなどの動物の骨が見つかっています。当時の調理方法を考える上でも興味深い資料です。

下長(しもなが)遺跡（古高工業団地周辺）では縄文時代中期末（今から約4,000年前）の竪穴住居が見つかっています。この住居は直径約4mの円形住居で、屋根を支える柱穴が4つ検出されています。また、住居中央西側で炉が見つかったことから、東側に入口が想定されています。炉は石囲炉(いしがこいろ)と呼ばれるタイプのもので、こぶし大の川原石を一辺50cm程の大きさに四角く並べてありました。住居内からは土器の他、石鏃(せきぞく)や磨石(すりいし)などの石器が出土しています。弓矢で動物を狩り、採取したドングリなどを磨石で擦(す)り潰(つぶ)して、食料とする。そして、石囲炉に火を入れ、土器で食料を煮る。そんな光景が目の前に浮かぶようです。また、この遺跡では東海と瀬戸内の影響を受けた土器が見つかっています。これは東西の文化がこの地域に流入していたことを示しており、交通の要衝(ようしょう)たる滋賀県の地理的環境を物語っています。下長遺跡の周辺には経田(きょうでん)遺跡（今宿町）、古高(ふるたか)遺跡（古高町）、塚之越(つかのこし)遺跡（古高町）、北太田遺跡（草津市）など、ほぼ同時期の遺跡が2km四方に近接してあり、移動を常とする縄文人の活動範囲を考える上でもおもしろい資料です。

吉身西遺跡（守山四丁目）では後期末（今から約3,000年前）の竪穴住居が見つかっています。この遺跡からはサヌカイト製の石鏃やサヌカイトの石核(せっかく)（石器の素材を剝(は)がしとった石）、剝片(はくへん)、大量のチップが見つかっています。サヌカイトを村の中に運び込み（二上山(にじょうざん)から？）、石を打ち割って鏃(やじり)など石器を作っていたものと考えられています。おそらく、交易を通して石材となる石を手に入れていたのでしょう。

守山市内の縄文時代の遺跡のほとんどは、その内容がよくわかっていません。これは、弥生時代以降の開発で縄文時代の遺跡が壊されてしまった、あるいは守山市が沖積平野(ちゅうせきへいや)であり、野洲川による沖積作用によって、遺跡が地中深く埋没してしまったことなどが理由であると考えられます。

謎にみちた「守山の縄文時代」。出土した土器や石器などから当時をイメージしてはいかがですか？

【埋蔵文化財センター歴史入門講座のお知らせ】

守山市を始めとする野洲川の流域では、弥生時代の遺跡が多数見つかっており、全国的にも注目される成果が上がっています。歴史入門講座ではその貴重な成果を資料やスライドをまじえて、わかりやすい解説をします。６年目の今年は「弥生時代の湖南」をテーマに近隣市町の調査担当者を講師に迎え、講座を開催します。野洲川流域の弥生時代の遺跡群を検討する中で、あらためて守山の歴史が浮かび上がってくるのではないかと思います。

☆ 講座日程　第１回　６月17日（土）　「弥生時代の湖南－野洲川流域の特徴－」
　　第２回　７月15日（土）　「弥生時代の草津－玉造り・五角形住居－」
　　第３回　８月19日（土）　「弥生時代の栗東－大型建物・銅鏃・銅釧－」
　　第４回　９月16日（土）　「弥生時代の野洲－大岩山銅鐸－」
　　第５回　10月21日（土）　「下鈎遺跡と小銅鐸」
　　第６回　12月16日（土）　「湖南の上半期の調査成果」

☆ 受講料　１，０００円

☆ 時　間　午前１０時から午前１１時３０分

☆ 場　所　守山市立埋蔵文化財センター　２階会議室（守山市服部町２２５０番地）

☆ 定　員　先着５０名

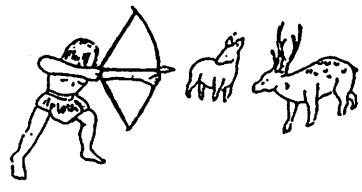
☆ 申込み方法　埋蔵文化財センターに電話か有線で申込み下さい。
　　☎・ＦＡＸ　５８５－４３９７　有線（速）３８１１２

※ 詳しいお問い合わせは市立埋蔵文化財センターまで

交通機関　ＪＲ守山駅から近江バス（服部線）市立埋蔵文化財センター行き終点下車

【埋蔵文化財センター友の会のお知らせ】

市立埋蔵文化財センターでは「埋蔵文化財センター友の会」会員を募集しています。友の会では、埋蔵文化財の理解を深めるため、博物館の見学や講演会などを行っています。会員になると、各種催物のご案内や埋蔵文化財センター機関紙「乙貞」を送付します。

☆ 年会費　２，０００円

※ 詳しいお問い合わせは市立埋蔵文化財センターまで